



元気な作物づくり の大定番！

野菜・果樹のカルシウム欠乏症を防ぐ



特殊肥料（葉面散布用肥料）

カルクロン[®]

葉面散布でしっかり吸収し、新葉・新根・果実の成長を活性化。
「カルシウム欠乏症」を防ぎ、
元気で美味しい作物づくりをサポートします。

■カルシウム欠乏症をしっかり防ぐ！

- 作物のカルシウム欠乏による、いろいろな症状に的確な効果があり、品質のよい作物が収穫できます。

■吸収性に優れ、高い効果を発揮！

- 葉面からの吸収がよく、過湿または乾燥時で根が弱っている場合でも、高い効果が期待できます。



トマト/尻ぐされ症



はくさい/ふちぐされ

■使用方法

適用作物名	主な欠乏症状	希釈倍数(倍)	水10ℓ当たり薬量(g)	使用方法
トマト	果実の尻ぐされ症、新葉の黄化	200	50	葉面散布
はくさい、キャベツ	ふちぐされ、心ぐされ症			
たまねぎ、セルリー	心ぐされ症			
はなやさい	新葉の先枯れ症			
かぼちゃ、なす、きゅうり	葉縁の黄白化	300	33	
かんしょ	新葉の黄化	200	50	
いちご	チップバーン			
りんご	ビターピット	200～500	50～20	葉面・果面に散布
ぶどう	新葉葉縁の葉焼け症	300	33	葉面散布
てんさい	心焼け症	200	50	
そらめめ	種子腐敗	350～700	14～28	は種床灌注

⚠ 使用上の注意事項

- 規定濃度はよく守ってください。濃過ぎると薬害の原因となり、薄いと効果が劣ります。
- トマトの尻ぐされには開花時が最も有効ですから、第1、第2、第3花房の各第1花の開花時をねらって3回散布してください。
- セルリー、かぼちゃ、さつまいも、ぶどうの場合は、若葉の症状に注意し、早めに散布を開始して、7～10日間隔で3～4回散布してください。
- はくさい、キャベツのふちぐされ、心ぐされには早めに散布を開始して、7～10日間隔で3～4回散布してください。とくに結球するまでに散布することが必要です。
- りんごでビターピットが発生する園では、6月上旬～7月中旬の間に7～10日おきに3～5回、果実に十分かかるように散布してください。
- たまねぎの心ぐされの場合は地上部の症状では判断しにくいので、例年心ぐされの多い圃場では、倒伏期までに展着剤を加えて2～4回散布してください。
- いずれの場合も散布が遅れると効果が出にくいので、早めに散布してください。
- 本剤の適期散布で効果が現れない場合は、他の原因が考えられますので、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 吸湿性が強いので、使用残りの薬剤は必ず密封し、直射日光をさけ、乾燥した冷涼な所に保管してください。
- 万一吸湿して固まった場合でも、効果・薬害等には悪影響はありません。

■カルシウム欠乏症状の現れ方

作物名	主な欠乏症状	欠乏症状の現れ方
トマト	尻ぐされ症	果実の花のついた部位の内部が水浸状になり、やがてそこが黒色となり、くぼんでくる。
	新葉の黄化	葉の先端に近い所が黄白色となって伸びがとまり、しだいに褐色になって周辺部が枯死する。
はくさい、キャベツ	ふちぐされ	結球葉の周辺部が水浸状となり、つづいて灰白色になり、内側にわん曲して枯死する。
	心ぐされ症	結球を縦に切ってみると、中心部がアメ色または褐色にくさっている。
たまねぎ	心ぐされ症	収穫したときや貯蔵中のものを縦に切ってみると、中心部が水浸状、あるいは黒色になっている。
セルリー	心ぐされ症	はじめのうちは中心部の若い葉が黄化し、ひどいときは中心が黒くなり、葉柄の外側に亀裂が発生する。
はなやさい	新葉の先枯れ症	新葉の葉先が萎縮し、褐色に枯死するときと、新葉の中心部に褐色の斑点が現れるときがある。
りんご	ビターピット	果皮に大小の黒褐色の斑点ができる。縦に切ると、この黒褐色の枯死部が果肉にくいこみ、コルク化している場合がある。
ぶどう	新葉葉縁の葉焼け症	果房が肥大している時期に、新葉の葉縁部に葉焼けができ、葉が内側にわん曲する。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

この資料は2023年9月現在の登録に基づいて作成しています。